

元元集

北畠親房著・延元二年(1337)から三年成立。一九三四年刊の「日本古典全集」の「神皇正統記・元元集」巻第二より。

「元元集」は「神皇実録」を引いて天手力雄命を思兼命の御子としている。

神皇實録曰、高皇産靈神、

高祖神、故亦名高貴神。天御中主神長男也。

其女子云タクハタトヨアキツ栲幡豊秋津

姫命ヒメ

一。皇孫尊母也。高貴神女。

次云フモヒカネノ思金命一

智性靈坐、相殿姫神。兒、云天手力雄神。

皇孫尊母也。高貴神女。

の「神」と「女」の左側に●点、

智性靈坐、相殿姫神。兒、云天手力雄神。

の「手力雄」左側に「タチカラヲノ」

とある。共に本来は右側の振り仮名であろう。

なお、別箇所系統図の一部に左のように親子関係を示す図がある。

—— 思兼命 —— 天手力雄命

註 「日本古典全集」の「神皇正統記・元元集」は近代

デジタルライブラリ (<http://kindai.ndl.go.jp/>) に

画像がある。記述は165コマ目。図は152コマ目。

DOI 10.11501/1194142

なお、「神道大系 論説編 北畠親房（上）」にも
翻刻がある。